

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)	
(1)支援事業	入院中の患児とその家族への応援事業	院内イベント	月3～6回	・千葉県こども病院 ・千葉大学医学部附属病院小児科 ・成田赤十字病院小児科	2～4名	30名	890
	退院後の患児・家族の交流を目的としたイベントの開催	野球観戦	R1.7.27(土)中止	ZOZOマリンスタジアム	—	—	0
		キャンプ	R1.9.21(土)～23(月)	山梨県 清里 キープ自然学校	13名	70名	272
		はぜつり	R1.10.12(土)自然災害で中止	千葉県 花見川河川敷	—	—	0
	茶話会	年2回	千葉大学医学部附属病院	2名	10名	1	
	経験者交流会	R1.11.23(金)	千葉市中央区	3名	10名	35	
	いっぷく亭	毎週火曜	千葉県こども病院 周産期棟1階	2名	110名	36	
	成人医療移行支援(医師会勉強会)	R1.9.5(金)	千葉市内	3名	25名	39	
	(2)啓発事業	患児家族向け講演会	R1.6.2(日)	淑徳大学(千葉市中央区)	10名	40名	45
		公開講座	R1.11.3(日)	千葉市文化センター5Fセミナー室	10名	40名	128
小児がん学会(SIOP2019)		R1.11.14(木)～16(土)	広島県	3名	30名	181	
支援自販機		随時	千葉県内	—	—	64	
(3)広報事業	ホームページの運営	随時	社員自宅	4名	不特定多数	39	
(4)会報誌発行	会員対象の会報誌(ミルフィーユvol.9)の印刷、郵送	H31.4.27(土)	社員自宅および市内公民館	10名	会員約200名 ・各施設での外来通院患者 ・家族150名	397	

### 令和元年度特定非営利活動に係る事業報告書

## 1 事業の成果

支援事業では、入院中と退院後の患児・家族を対象とする支援事業に重点を置き活動した。支援事業では、単調な入院生活に日常性を少しでも取り戻せるよう、季節にあわせ様々な行事を行った。人形劇やアニマルセラピー、プラネタリウムなどの外からのボランティアの方々のご協力をいただきイベントでは、挨拶の指導等を行うことで、感謝の気持ちを表現する機会を設け社会性の発達に資することができた。

また、退院後の患児やその家族の交流を目的とした屋外イベントであるJ&Mキャンプ2019へ参加した。

このほか、似たような経験をした者同士が病気について気兼ねなく話せるきっかけづくりの場として、小児がん経験者の集いや、サロン「いっぷく亭」を継続実施した。

さらに、新しい取組みとして小児がんの長期フォローアップのため、小児から成人への移行期医療の重要性を医師・看護師および関係職種の方々に認識していただくことを目的とした勉強会を開催した。

啓発事業では、総会後の講演会で2人の医師による「成人期を迎えた小児がん経験者の長期フォローアップ状況についての横断的調査」と「生殖医療と妊手性温存治療の現状と期待」、臨床心理士による「がん生殖医療の心理社会的側面」についての講演をいただいた。

広島で行われた小児がん学会では、「いっぷく亭の開設」についてポスター発表をした。2017年9月にいっぷく亭を開設してからの来訪者数は500名以上となり、医療者と患者・家族が気軽に立ち寄れて垣根のない関係性の中で話せることが、仲間づくりや情報交換、ピアサポートの場として大きな役割を果たしていることを紹介した。

活動の内容は随時ホームページに掲載し、会員だけでなく広く社会の皆様への情報提供に努め、会報誌はミルフィーユvol.9を発行することができた。

その他、千葉県こども病院と千葉大学医学部附属病院小児科、成田赤十字病院、そして千葉県がんセンターでの犬とのふれあい活動のボランティア団体CAPPへの感謝として毎年カレンダー製作・贈呈しているが、今年度も千葉県こども病院の子どもたちと袖ヶ浦特別支援学校院内教室の協力を得て、感謝の気持ちを表すことができた。